

◇ 実践活動記録

友達や地域、他地域の人・もの・こととの関わりを契機に、主体的に探究する子供の育成

1 はじめに

南砺市では、学校教育で目指す子供像を「ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓く なんとっ子」とし、「ふるさと学習の推進」に市全体として取り組んでいる。

本校においても、地域の自然・文化・産業・歴史等の郷土教材を各学年の教育課程に位置付け、学校と地域が一体となった学習を進めている。また、本校では、今年度から「南砺利賀みらい留学」が始まり、6名の山村留学生を受け入れ、全校児童が15名になった。そのため、これまでとは違った視点から「ふるさと利賀」を見つめることができる環境ができた。そこで、今年度は、特に他地域との交流を中心に「発信」することを大切にしようと考えた。発信するという目的をもつことで、より一層主体的に対象と関わり、今まで知らなかったり、当たり前だと思っていたりする地域のよさを知ることができると考えた。また、そのよさ発信し、反応が返ってくることで、地域のよさを見直し、地域に愛着をもったり自分に自信をもったりすることができるのではないかと考えた。

2 活動の実際

① 第1・2学年生活科

「利賀地域をたんけんしよう ～すてきをみつけよう、すてきをつたえよう～」

すてきをみつけよう

低学年の子供たちは、利賀地域の中の百瀬地区と豆谷地区に住んでいる。それぞれの地区についての話合いの結果、子供たちは、家のすぐ近くにある建物や生活に関わりのあるものについても知らないことが多いことに気付いた。そのため探検では、百瀬地区と豆谷地区の両方を調べることにした。

百瀬地区探検では、利賀芸術公園や百瀬川沿いの散策、豆谷地区探検では、豆谷の公園から、さらに下流の栗当地区まで足を延ばして探検し、脇谷の栃の木や湧き水等も見たり触れたりした。その際、目的地の様子だけでなく、利賀地域の広さについても子供たちは驚いたり、利賀の自然についても知ったりすることができた。

まとめ活動をする中で、百瀬地区の探検では行かなかった利賀国際キャンプ場についても興味をもち始めた子供たちは、キャンプ場の方に質問状を通して、分からないことを尋ねるなど、調べ活動を広げることができた。また、豆谷地区について調べていた子供は、豆谷地区にある手作りの公園をどうして作ろうと思ったのか疑問をもちはじめ、自分で関係する方に聞くなどして、



【百瀬地区の探検の様子】



【豆谷地区の探検の様子】

分かったことを模造紙にまとめていた。こうして、「すてき」を見付けるための“もの”との関わりをきっかけに、“人”との関わりに広がっていった。

すてきをつたえよう

子供たちは、まとめた模造紙を基に、「利賀のすてき」を2月にある学習参観で保護者に発表する予定を立てていた。しかし、調べ活動を進めていくうちに、市外や県外の人にも「利賀のすてき」を知らせたいという思いをもった。そこで、交流のある国際大学生や、来年度の山村留学希望者等、来客があるごとに調べたことを伝える時間を設けた。

発表活動を通して、「利賀について知りたい」と思ってもらうためには、利賀について興味をひくものが必要であるという思いを抱いた。そこで、自分たちで調べた地区のよいところが表れるゆるキャラを作り、キーホルダー等のグッズを作って利賀について広めようということになった。

ゆるキャラを作るにあたり、さらに分からないところが出

てきた子供は、自主的に村の方に「栗当の自然の中で他にきれいなものはありますか。」と質問をするなどの調べ活動を重ねた。その結果、どのゆるキャラも、それぞれの地区のよいところが現れるように特徴的なものを盛り込んだものとなった。ゆるキャラグッズは利賀地域の中で人が集まる場所や高齢者施設に置かせてもらったり、学習参観で発表をする際に配布したりする予定である。

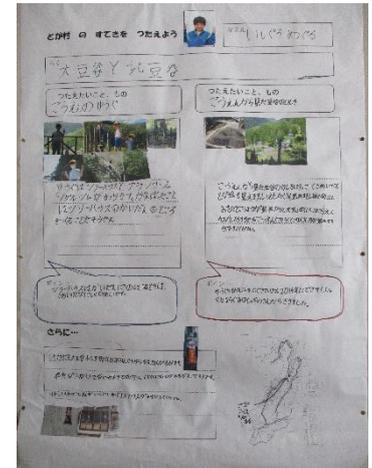
「すてきをみつけよう」「すてきをつたえよう」を通して、子供たちの意見を基にまとめ方や伝え方を工夫したことで、自分の地区に愛着を深めただけでなく、さらなる疑問が生まれたり新たな発見をしたりするなどより広がりや深まりのある活動となった。

② 第3・4学年総合的な活動の時間 「利賀名人になろう」

今年度、中学年には山村留学生在が5名加わった。山村留学生の子供たちは、利賀はそばが有名であることは知っていた。また、そば祭りについては、「聞いたことがある」



【調べたことを発表する子供たち】



【調べたことをまとめた模造紙】

ゆるキャラの えや字をかきましょう。



せつめいももキャンのつゆはかもしかひつゆはぼろはキャンと鳥のデコですふくの色は川をイメージした色です。
ゆるキャラを通して 伝えたいこと さあいな川とせんとくがたくはあつまるのもも色のいいところ。

【利賀のゆるキャラを考えるワークシート】



【利賀のゆるキャラキーホルダー】

程度の実態だった。利賀村在住の子供たちは、なんとなくは知っているが、留学生に説明できるほど十分に知っているわけではなかった。そこで、なぜ利賀のそばが有名なのか、また、そば祭りとはどんな祭りなのかを2つのチームに分かれて調べることにした。

利賀そばチーム

子供たちは、本やインターネットを活用して調べ、そばが900年以上前から作られていたこと、そばは痩せた土地でも育てることができることから利賀地域でも育てられるようになったこと、そばを作るには水回し、練り、くくり、のし、たたみ、切りの工程があること、利賀のきれいな水があることからおいしいそばを作ることができることなどを調べた。

しかし、実際にそばを作る様子を見たことがない子供がほとんどで、言葉だけではイメージできないことが多かった。そこで、利賀地域で手打ちそばを作っている店舗に行き、そばを作っているところを見学したり、話を聞いたりした。



【手打ちそばの店舗での見学の様子】

実際にそばを粉から作る場所を見学し、そば打ちに必要な道具や工程を間近に見せていただいたことで、言葉での知識を実感として知ることができた。また、時間をかけずに手早く作るなどという、調べ活動では分からなかった作業の雰囲気を体感することで、そばが有名な理由を自分なりにつかんだようであった。

そばを作っている方からそばについての話を聞く機会を設けた際は、そば作りの作業の様子を見学した後だったため、話の内容をイメージしやすく見学した店舗との作り方を比較しながら聴くことができた。

子供たちは利賀のそばについて五感を通して知ること、たくさんの人に食べてもらってもっと利賀のそばを有名にしたいと考えようになった。

そば祭りチーム

そば祭りチームも本やインターネットを活用して調べ活動を行い、そば祭りは、2月中旬に国際キャンプ場で行っていることや、そばだけでなく、岩魚やそばチップス等を食べられるようにしていることを知った。また、食べるだけでなく、雪像の展示や、野



【そばやそば祭りに詳しい方から話を聞いている様子】

外ステージ、花火等も行っていることも分かった。調べていく中で、そば祭りを始めた目的に興味をもった。そこで、そば祭りを企画した方から話を聞く機会を設けた。ここでは、昔は利賀に行くための道が悪く、雪の多い冬にそば祭りを行うことでたくさんの人に見てもらおうことを目的の一つとして行っていることを知った。また、最近では、来場者が減ってきているため、祭りを続けていくために毎年同じ内容をするのではなく変化をつけるようにしていることも分かった。

その結果、子供たちは、村の人々の願いがこもったそば祭りにもっとたくさんの方が来てほしいと考えるようになった。

どちらのチームもいろいろな人にまずは利賀のことを知ってもらわないといけないと考えた。そして、たくさんの人に広めるためにはどうしたらよいかについて、話合った。その結果、他の学校の人に紹介するために、2つの小学校とオンラインで、利賀のそばとそば祭りの魅力を伝えた。相手の学校からは「利賀そばがおいしそうだから食べに行きたい」や「花火がすてきだからそば祭りに行ってみよう」という言葉があった。また、山村留学生は、「自分の地元の友達にも伝えたい。」という考えをもち、友達に利賀の魅力を伝えるためのパンフレットやチラシを作る予定をしている。

「利賀名人になろう」の学習を通して、利賀のよさを感じたり、携わっている地域の人の思いに触れたりしたことで利賀をより好きになっているのではないかと考える。



③ 第5・6学年総合的な学習の時間「SDGsを広めよう」

SDGsについて調べよう

南砺市は、2019年に国の「SDGs未来都市」に選定された。そのことを知った子供たちは、まず「SDGs」とは何か、資料やインターネットで調べた。SDGsは、「持続可能な開発目標」の略で、それには17の目標があることや、自分たちのあらゆる活動が必ずいずれかの目標の達成に関係していることを子供たちは知った。その目標は、2030年までに達成されなければならないことや、日本の達成率が世界18位と、とても低いことに驚いた子供たちは、その理由が自分たちと同様に、皆に知られていないことだと気づき、全校や地域にSDGsを広めようと考えた。子供たちは、まずSDGsとは何か、自分たちにどんなことができるか、調べたことを模造紙にまとめたり、南砺市と富山県立大学が共同で制作した「なんとSDGsボードゲーム」をしたりして、SDGsについての知識を深めた。



SDGsを広めよう

SDGsを広めるために、まず子供たちはまとめた模造紙を使って全校にSDGsを紹介した。「SDGs」の言葉や意味について初めて聞く子供がほとんどで、とても興味深く説明を聞いていた。2つ目の活動として、自分たちができる身近なSDGsの活動を、毎日1つずつ朝の会で全校に紹介した。毎朝紹介することで、それを聞くのを楽しみにしたり、家で実践したりする子供も増えた。3つ目として、校内に「廊下を歩こう」や「こまめに電気を消そう」等のポスターを掲示することで、安全な学校生活やCO2排出削減による地球環境の保全の達成を目指した。4つ目として、学習発表会で保護者や地域の方へ自分たちの取組を発表し、SDGsを広める活動を行った。

この後も、子供たちは地域にSDGsの紹介パンフレットを配布する予定である。これらの活動を通して、一人でも多くの人にSDGsについて知ってもらい、ふるさと南砺市を目指すSDGsの目標達成を目指す子供の姿が見られた。



【全校に紹介している様子】



【朝の会での紹介の様子】



【廊下に掲示されたポスター】



【学習発表会で発表する様子】



【保護者会の際に設けたSDGsコーナー】

3 まとめ

発信するという目的をもつことで、より一層主体的に対象と関わったり、地域のよさを知ったりすることができた。そのことが、地域のよさを見直し、地域に愛着をもつことにもつながった。また、発信したことに反応が返ってくることで、自分や自分たちの活動に自信をもったり、さらに活動を発展させていこうとしたりする姿になった。

今後もこの実践活動を続け、ふるさとを誇りに思い、地域に貢献できる子供を育てていきたい。